



第 1269 回例会報告

会長挨拶

平成 24年5月 17 日(木)晴

会長 三村昌暉

◇幹事報告◇

諏訪湖

本日は、信州大学山岳科学総合研究所の花里孝幸教授をお招きして、援助金の贈呈と、『ミジコ先生の諏訪湖学』について卓話をいただきます。

諏訪湖は我がクラブのクラブ名でもありますし、創立時の気概も”諏訪の湖を心の鏡として研鑽を深め奉仕の誠を尽くそう“であります。設立目的の重点事業の一つが諏訪湖の浄化問題への取り組みでありました。諏訪湖はまさしく、この地方にとってもクラブにとってもシンボルなのであります。

私は、諏訪市に在住しておりますが、小学校低学年の頃は、学校に専用のプールなどという物は無く、泳ぐ場所は、川か諏訪湖でした。現在上諏訪の諏訪湖畔、D51の機関車が展示してあるあのあたりに、

沖に向かって栈橋が長く出ていまして、そのエリア内がプール代わりでした。渇水で遠浅になると、諏訪湖に入って大きなカラス貝を取ったものです。

わが母校、岡谷南高等学校の入学時には、冬季、スケートで通学する生徒もいましたので、凍結した諏訪湖へ落ちた際の助かり方をレクチャーされました。いまだによく覚えております。

また、冬の諏訪をいろいろアイスキャンドルも、諏訪湖の浄化を願い、諏訪湖の水と氷を使用して作られています。

今日は、奇跡的に浄化が進んだ諏訪湖について、花里先生のお話をたっぷり聞かせていただきます。宜しくお願い致します。

【報告事項】

- ①諏訪グループ会員名簿に掲載する写真を例会時に会場にて撮影していますが、5月24日の夜間例会に出席できない会員は、5月25日までにくすてっぷカサイ)さんに直接お届け下さい。サイズはおおよそパスポートサイズです。25日は厳守お願い致します。
- ②年会費の未納の会員は、できるだけ早くご協力をお願い致します。
- ③信州大学・花里教授より贈呈された著書は「レターボックス」に入れてあります。目次だけを読んで本は購入してあげて下さい。

【受領文書】

ウィークリー 大津中央 RC

■ニコニコ BOX

18 名	32,000 円
累計	1,101,000 円
目標額	130 万円
達成率	84.7%

■今週のことば

初孫が誕生しました。孫の名前より、自分をなんと呼ばせようか悩んでいます。

高山巖

お蔭様で結婚57年になりました。何とか生きて行きたいと願っています。

尾上正弘

■出席報告

会員数	33名
出席対象	33名
出席者数	23名
出席率	69.7%
前回修正	84.8%

■次回のプログラム

5月31日
振り替え休日

6月7日
早朝例会
平福寺 午前6時
クラブ奉仕委員会



第 1269 回例会 外部講師卓話

信州大学 花里孝幸教授
社会奉仕委員会

本日は、花里教授をお招きし、助成金の贈呈と卓話をいただきました。また先生からは近著の「ミジンコ先生の諏訪湖学」をいただきました。



今季は担当例会が多く屋内例会が5回、屋外例会が1回、諏訪湖アダプトプログラム2回、ブナの植樹と大変な負担を強いられた一年です。

5回目の例会の主題は「生態系」、講師は信州大学山地水環境教育環境センター長の花里孝幸教授です。諏訪湖浄化を中心に生態系の興味深い話をいただきました。

自然破壊と生態系破壊は同じ様な意味として捉えられており、生態系も破壊されるかのように云われていますが、教授の話では、人間も生態系の一部で生態系が変わることはあっても、壊れることは無いと話されました。湖は地球の生態系のミニチュアである。生物や人間が生き残れる生態系にする必要があると云われました。

卓話の内容を提出する羽目になると思っておらず、2~3行のメモしかないためにネットで調べたものを掲載します。

ある一定の地域で生息しているすべての生物と、その無機的环境とを含めて総合的なシステムとみた場合、その生態系(エコシステム)という。とくに、その

なかでの物質循環やエネルギーの流れ、さらに情報量あるいは負のエントロピーの維持・伝達といった機能的な側面に重点を置く。すなわち、太陽光線をエネルギー源として生産者(緑色植物)は、無機的环境から取り込んだ物質を素材として有機物を合成し、太陽光線のエネルギーが化学的エネルギーに転換される。これに存在して生活する消費者(動物)はその化学的エネルギーの一部を成長・増殖、さらに生活行動に必要な形態に転換して利用する。生産者および消費者の排泄物や遺体は分解者(細菌や菌類、還元者ともいう)によって利用し分解され、物質はふたたび無機的环境に還元される。

この過程で、太陽光線を供給源とするエネルギーを種々の形に転換して利用することにより、その生物共同体が維持されているが、熱力学の第二法則に従って、そのエネルギーは最後には熱として外界に放出される。従って、生態系は、太陽光線をエネルギー源とし、無機的环境—生産者—消費者—分解者—無機的环境へと、物質の有機化・無機化の過程を通して循環させることにより営まれている一つの巨大な自律的機関であるとみなすことができる。

こうした機能をもった生態系の構造の安定性や効率などの問題を明らかにすることは、生態系の性質を理解するうえで重要である。

生物と環境を含めた総合的な見地の重要性は、古くから多くの人によって意識されていたが、エコシステムということばは1935年イギリスの植物生態学者タンズリーA. G. Tansley(1871—1955)によって初めて提唱された。ひと口に生態系といっても、その無機的环境の条件によってその様相はいろいろと異なっている。たとえば、海洋、湖沼、陸地、極地、砂漠などの生態系に区別されることがあるし、またその生物相の特性によって草原生態系、森林生態系あるいは鳥類生態系とか、耕地生態系、都市生態系など、最近ではきわめて広い範囲の対象に対して生態系ということばが使われるようになってきている。生態系を、生物進化の視点から考察することが近年とくに重要視されるようになり、進化生態学とよばれる分野の研究が盛んになりつつある。生態系の研究は今後、集団生物学や社会生物学などを総合した広い視野にたった学問の研究対象として理解がさらにいっそう深められていくことであろう。